

アカデメイア（土曜特別講座）

平成15年度 アカデメイア（土曜特別講座）担当

阪本康之・深澤孝之・奥村準子・小澤信治・加藤敦子
鈴木正徳・小林美智子・土屋 光・石井克佳

【要旨】

大学へ進学させるための特別指導。第1、第3土曜日を活用し、教科学力だけでなく幅広い学習能力を身につけるためのメニューを用意し、探究心・問題解決能力の育成をはかる。この講座は従来の「補習」とは異なり、ゼミ形式で「考え方を学ぶ」講座である。卒業研究や総合的学習の時間などのときに、自分の視点から意見を言えることができる生徒を育成する。本校の「新しい進学の形」に沿った講座である。

【キーワード】探究心、問題解決能力、論理力、議論・討論する力、土曜特別講座

1. はじめに

本校は総合学科に改編して早や9年が経過しようとしており、総合学科改編の節目の時期に来ている。現在、本校を取り巻く最大の課題は、国立大学法人化の流れの中で、附属学校としての役割をどのように担うかである。

筑波大学自体、10校の附属を抱える中で、各附属の存廃問題が俎上に上がっている。その中で、本校は「総合学科及びキャリア教育の研究・実践校」としての位置づけであった。しかも、筑波大学との連携なしにはその存続も意味を持たないことが指摘されていた。

本校の総合学科への改編も大学との連携の結果とは決して言えるものではなかった。そこで、筑波大学との連携を強める意味もあり、系列の在り方を大幅に改革することとなった。

また、本校は50余年の歴史から、職業教育を基本理念とする総合学科としてきた。しかし、総合学科改革以降、大学進学者が年々増加し、進学方法も多様化してきている。その中で、総合学科で学んだ新たな「知の総合化」の結果による推薦入試やAO入試の成果は目を見張るものがある。

そこで、系列改革に伴う、中学生へのキャッチフレーズは「私たちは新しい進学のあり方を提案します」「大学で何を学ぶかを学ぶ進学校」である。このことは、いわゆる「受験学力」の指導が中心の総合学科をめざすのではなく、総合学科で学んだ成果である主体的な学習態度や知の総合化に基づいた進学を進めることである。いわば、総合学科の成果の再確認である。

そのための1つとして、本校では、特別推薦入試（指定校制：各校男女1名）を実施することにした。これは、本校の指定した中学校において、次の条件をすべて満たし、在学中学校長が責任をもって推薦する者。を出願条

件にしている。

- ①平成16年3月、中学校を卒業見込みの者。
- ②本校への入学を第一志望とし、大学進学を目指し、それに見合う学習意欲・学力があると認められる者。
- ③志願の目的意識、理由が適切である者。
- ④調査書の評定平均値が3.8以上の者。
- ⑤健康で人物が優れている者。
- ⑥合格した場合、入学を確約できる者。

②や④を条件としているため、特別推薦で入学してきた生徒に、大学へ進学させるための特別な指導を行う必要が出てきた。そこで、基礎力向上に加えて、第1、第3土曜日を活用し、教科学力だけでなく幅広い学習能力を身につけるためのメニューを用意し、探究心・問題解決能力の育成をはかるゼミを展開することになった。

2. 目的

この講座は従来の「補習」とは異なり、ゼミ形式で「考え方を学ぶ」講座である。卒業研究や総合的学習の時間などのときに、自分の視点から意見を言えることができる生徒を育成する。本校の「新しい進学の形」に沿った講座である。

3. 方法

(1) 実施日など

・隔週（月2回）の土曜日

75分2コマ 9:00～10:15、10:30～11:45

(2) 対象生徒

・1、2年次生のみ（平成15年度入学生から）

・1つのグループは6人から8人。特別推薦入学者＋希望者

(3) 担当者

・ 1 学期：国・数・英

(6回 4/26、5/10・24、6/7・21、7/12)

4/26 英・国 5/10 英・国 5/24 英・数

6/7 英・数 6/21 数・国 7/12 数・国

英語科として平成15年度英語は2名で担当

・ 2 学期から2年次3学期：基礎力向上の7時間目を受け持たない教員（国数英3教科以外）

(12回 9/6・27、10/4・25、11/8・29、12/13、1/10・24、
2/7・21、3/13)

・ 担当者は、0.5日分の勤務時間の割り振りの変更を行う。

※ 2 学期以降、理科が加わり下記のように変更を行った。

・ 実施時間

60分2コマ 9:00～10:00、10:10～11:10

理科ゼミ 11:20～12:30

・ 対象生徒

理科ゼミは分野に分かれて

・ 担当者

基礎力向上の7時間目を受け持たない教員と理科
(国数英理の4教科以外)

4. 基本計画

(1) 1 学期

2 学期以降の準備のためゼミ形式に準じたものが望ましいが、内容や人数の関係で一斉でも可。

内容は各教科におまかせ。複数で指導しても1人で指導してもよい。

(2) 2 学期から2年次3学期：

基本コンセプト

ものを考えることは楽しいことであり、それは人が人であることの最大の証である

日本の最大の資源は人であり、人から生み出される知恵の分だけ生きることができる

さあ、考えることの楽しさを感じよう！

・ 1 つのテーマは3回でワンセット。

1 回目 テーマ提示、自分の考えを発表、
ディスカッション

2 回目 自分の考えを発表、ディスカッション

3 回目 意見の再考、まとめ

レポート提出

期限は翌週まで。

A4版 40字×20行を最低、

最高は担当者にまかせる。

担当者はコメントして返却する。

・ 理論づけがあり、自分の意見を述べること（述べられる内容）

・ 帰納的な展開か演繹的な展開ができるもの

（担当者は指導メモにどちらの内容であるか、またその方針を明記する。）

漠然と行われぬように方向性を前もって考えていただくため。

・ 昨今の時事問題から、担当者の専門分野など何でも題材にしてください。

・ 課題提示にビデオを用いたり、あるいは小説を使ったりと教材は何でも良い。

・ 結論がなく話し合いが行えるもの

例 プロジェクトX

5. 2 学期以降の内容

① 論理的に考える力を伸ばす訓練

(3 回分 9・10月 50人×2班)

目的

考える楽しさを味わうこと。

諦めずに最後まで課題を解決しようとする姿勢を養うこと。

問題が解けたときの喜びを味わうこと。

「論理的に考える」ことの意味を考える。

内容

「論理的思考力を鍛える本」 小野田博一著 日本実業出版社 を教材とし、授業では問題演習を行いながら目的に挙げた項目を達成できるように、体験的な学習を進めた。

第一回 論理的に考えるって、どういうこと？

論理と「論理的」について

ロジカル・シンキング

(課題) 練習問題

第二回 アナリティカル・シンキング

(課題) 練習問題

第三回 クリティカル・シンキング

(課題) 練習問題

②様々な考えを述べあい、議論、討論する力の育成

(3回分 11・12月 6～8人で一班の12班)

目的

様々な意見・多くの意見を聞きながら、自分はどのような考えを持つか考え、自分と異なる意見にも耳を傾け、前向きな討論を行う。

内容

- 第一回 テーマの説明 基礎資料提示 自由討議
(課題) 2週間で資料収集、知識・認識の向上
- 第二回 調べたことや考えたことをもとにした討議、第二基礎資料の提示、自由討議
(課題) 議論したことや資料などからテーマに対する自分の意見をまとめる
- 第三回 意見発表、質疑応答、自由討議 必要に応じて基礎資料の提示
(課題) 報告書 自分の意見提出

③多くの資料から説得力のある意見を組み立てる力の育成

(3回分 2・3月 6～8人で一班)

目的

客観的・実証的な資料をもとに自分の意見を組み立て、発表することを通して、より説得力ある意見を組み立て、実践的な討論を行う。

内容

- 第一回 テーマの説明 予測・推測の記述 調査活動
- 第二回 調査結果について中間発表、質疑応答、自由討議
- 第三回 意見発表、質疑応答、自由討議
テーマ例「日本が不況から脱却できない理由」
日本にとって失われた10年といわれる1990年代。今もなお日本は「デフレ不況」という嵐から抜け出せないでいます。その理由を自分なりの視点で探してみましょう。そもそも不況とは何なのか、いつから始まったのか、なぜ不況に陥ったのか、そしてなぜいまだに脱却できないのか。これから自分たちが船出する日本社会を見つめてみましょう。
その他「織田信長と本能寺の変」「トヨタ自動車もうけの秘密」

④自由な発想で物事を考えそれを表現する力の育成

(3回分 来年度4・5月 6～8人で一班)

目的

独自に調査した結果や客観的な資料に基づく各自の

自由な発想による討論を行う。

内容

- 第一・二・三回 テーマの説明 意見の記述・主張
自由討議 まとめの記入

※テーマによっては1週で終わるもの、2～3週に渡って行われるものもある。

テーマ例「最後の女神」って何？」

中島みゆき作「最後の女神」を題材に、歌われている「最後の女神」とは何のことか、また、自分にとって人類にとって最後の女神とは何か、自由な発想で議論しましょう。

その他「5年後の携帯電話」「サザエさんが続く理由」

⑤理科ゼミ

目的・内容等は各担当者に任せる。

6. その他

各学期・年次での評価はしない。

実施日の部活動は、午後に行うなど配慮する。

平成16年度以降、1年次と2年次は独立してゼミを行う。

7. 実施報告

①1学期(英・数・国) 受講者: 99名

○英語

4回分の目標としては「実践的な英文読解力の基礎的な力を身につける」ことを意図して授業を展開した。

- 9分間で、まとまった英文を読み、問題を解き、さらに日本語で英文の内容を簡単にまとめる作業をするようにと教示する。
- 英文の内容をまとめるというのは、訳を書くことではないことを確認する。(と言っても訳を書く生徒はいると思いますが、継続的に指導していく)
- 9分後に作業をやめさせ、どんな内容が書かれていたかとの問いを発して、何人かの生徒に聞く。
- 教師が英文の内容を、・・・のようなことが書かれていたね、とまとめる。決して訳を言わない。
- 問題の答えの確認と難しいと思われる表現や語句の説明を手短にする。(説明は網羅的にする必要はない。)
- 残り時間で再度、英文に目を通すように指示する。
- 1回分を16分から17分で終わるようにする。

反省・感想

慣れ親しんでいる英語の授業（文法や熟語等を丁寧に押さえつつ、1文ずつ訳読する）とは形態が異なっていたため、多くの生徒が戸惑っているように感じた。また、英単語力が不足していたり、基礎的な英文構造の理解が不十分だったりして、9分で一連の作業を行うことに困難を感じている生徒が多かった。何人かの生徒を指名しながら英文の内容をクラス全体で明らかにしていく作業はある種ダイナミックではあるが、上記の理由で英文の内容をほとんど理解できない生徒にとっては何となく雲をつかむような感じで授業が終わってしまい、達成感なり充実感なりを持たせられたかは疑問である。今後は生徒の英語力の実態に合った教材の選定が課題になろう。

何年学習しても実用的な英語が身に付かないとの批判を打破するためにも、このような実践的な読解力を養成することを目的とする活動の研究を今後も進める必要があろう。

生徒の感想

- ・長文を毎回やることで慣れたし、おもしろく思えるようになった。少しはできるようになった。長文を解く力がついて良かった。役に立った。勉強になった。意欲的になれた。早く読めるようになった。大切だと思った。42名
- ・英文を読むのは好きなので楽しかった。わかる英文だったので楽しくできた。6名
- ・聞き取りだけで英文を理解したりして、少しはできるようになった。5名
- ・難しかった。大変だった。よくわからなかった。早くについていけなかった。5名
- ・物足りない。かなり簡単だった。速読と要約は家でも出来る。3名

○数 学

4回分の目標としては「考える力を身につける」ことを意図して授業を展開した。

第1回（5月24日）

- ・ハノイの塔を4人1グループで考えさせる。

第2回（6月14日）

- ・中学校入試問題。（数字のパズルの問題）
- ・宿題の解説（数学検定3級（中3レベル）1次の計算問題）

第3回（6月28日）

- ・イラストロジック。

- ・宿題の解説（数学検定3級（中3レベル）1次の計算問題）

第4回（7月12日）

- ・「公平って」タクシー料金の払い方を4人1グループで考えさせる。
- ・宿題の解説（数学検定2級（高1レベル）1次の計算問題）

反省・感想

授業で扱う内容とは違うので、とまどった生徒や逆に楽しめた生徒がいた。「ハノイの塔」はグループで競い合う形にした。回数が出たら、その数を聞き、合っていたら実際にやってもらった。簡単な取り組みだけれど、なかなか正解が出ず、盛り上がった。最後にn回だったら何回になるか考察してもらった。「中学校入試問題（数字のパズルの問題）」は時間がかかると思ったが、簡単に解かれてしまった。「イラストロジック」は暗号化された数字を楽しんで読みこなし、隠されている絵をあぶりだしていった。なかなか楽しかったようである。「公平って」は数学は答えが1つと思っていた生徒たちが、実際は考え方で何通りもの答えがあるのを知って、驚いていたようだ。全般的に科目「数学基礎」的な内容であったが、生徒が考えることの訓練の序章としては良かったと思う。ただ、宿題をやっている生徒が少なかったのが残念であった。

生徒の感想

- ・授業で学ぶようなことじゃなかったのが予想外だったが楽しかった。問題を解く楽しさが……。29名
- ・数学的な考えが出来た。物を違う視点からみれるようになった。あまりやったことのない問題やいろいろな考え方が出来て良かった。10名
- ・けっこうわかりやすかった。5名
- ・周りの人と話し合って問題を解くのは良かった。2
- ・問題を解く前によく考えるようになった。
- ・問題を解くのが大変。説明が欲しかった。パズルがわからなかった。難しかった。10名
- ・授業にそったものをして欲しかった。2名
- ・簡単だった。時間をかけて1問を解くのはどうか。2名

○国 語

4回分の目標としては「表現力の基礎的な力を身につける」ことを意図して授業を展開している。

- ・国語表現の基礎

句読点・区切り符号の使い方

仮名と漢字の使い分け

文体の使い分け

あいまい表現をなくす

文の乱れをなくす

をプリント学習でおこなった。

・新聞コラム学習（課題として）

語句の意味調べ

段落構成の把握

要旨を100字でまとめる

表題をつける

感想を書く

をプリントで提出させた。

どちらも、総合学科の生徒として重要な読解力・プレゼンテーション能力・文章表現力の育成を意図した指導内容である。これらの力は、大学進学を考える生徒にとって推薦入試やAO入試などで特に重要であり、また通常の国語総合の時間ではカバーしきれない領域をこのアカデメイアで実践することとした。

第1回（4月26日）

- ・要約文とは何か（講義）
- ・要約文の実際（課題となるコラム学習の方法説明）

第2回（5月10日）

- ・コラム学習①（課題）の解説と確認、提出
- ・「国語表現ワークノート」から「文体の使い分け」部分を抜き刷りしたものを学習する。解説。
- ・課題：コラム学習②

第3回（6月28日）

- ・コラム学習②（課題）の解説と確認
- ・コラム学習①（課題）の添削したものを各自に返却
- ・「国語表現ワークノート」から「あいまいな表現をなくす」部分を抜き刷りしたものを学習する。解説。
- ・課題：コラム学習③

第4回（7月12日）

- ・コラム学習③（課題）の解説と確認
- ・コラム学習②（課題）の添削したものを各自に返却
- ・「国語表現ワークノート」から「文の乱れをなくす」部分を抜き刷りしたものを学習する。解説。
- ・課題：コラム学習④

◇第1回国語報告

コラム学習①の提出状況は、事前の徹底不足もあっ

て35/99人と少なかったもので、今回は国語総合の授業を通じてもう少し強く呼びかけたい。

「ただ来て座っているだけ」の生徒（特に男子）も数名見受けられるので、この講座の意義をよく理解させたい。

感想・反省

しかし、実際に授業をおこなってみると、99人定員を1つの教室でマイクを使いながら授業したこともあって、生徒ひとりひとりへの対応が不十分となり、また入学したばかりの1年生にとって、「何のために必要な授業なのか」が説明されても実感として理解しづらい部分もあったようだ。来年度以降の課題であるが、生徒への動機付けをしっかりとこない、自ら課題をこなすことの重要性を理解させようとして、このアカデメイアに自発的に参加することを促したいと思う。

生徒の感想

- ・要約や文の整理などとても役に立つ内容が多かった。まとめる力がついた。17名
- ・中学の時にやらなかったような事もあり難しかった。宿題はやっていて楽しかった。4名
- ・文章をまとめることの大変さを知った。
- ・普段の授業ではやらないようなことが出来て良かった。
- ・難しかった。良く理解できない。31名
- ・課題が大変だった。4名
- ・文法など出来るものとして進めていた気がしたので。わからないものはわからないままだった。もっとちゃんとわかりやすく説明して欲しい。3名
- ・あまりよくない。よけいきらいになった。2名

②論理的に考える力を伸ばす訓練 受講者：104名
(3回分 9・10月 2班：60名、44名)

第一回

「論理的に考えること」について考える

例題を解いていく過程を通して、論理的に考えるとはどういうことか知る

「ロジカルシンキング」（その1）

多くの練習問題を解くことによって、論理が正しいかどうか判断するための方法を学ぶ

練習問題の多くは宿題

第二回

「ロジカルシンキング」（その2）

前回の授業の継続。宿題にした練習問題について解答・解説を行う。

「理詰めの分析方法」について学ぶ

理詰めに考えるにはどのような思考が必要なのかについて単純な練習問題を通して基礎能力を獲得する。

練習問題の多くは宿題

第三回

「理詰めの分析方法」（その2）

前回の授業の継続。宿題にした練習問題について解答・解説を行う。

授業に取り組む生徒の姿勢

第一回目の初期の段階では、「受け身」のつもりで出席している生徒が多く、「さあ、考えてみよう」と促しても、なかなか考えることができなかった。しかし、一時間もする頃には、ほとんどの生徒が私語をすることもなく、真剣に問題に取り組んでいた。解答をして自分の答えがっていると、「やったー」と叫ぶ生徒もいたり、間違っている生徒は「何で、何で」ともう一度考えようとする姿勢もみられた。

第二回目、三回目になるにしたがって、考えることの楽しさを理解できる生徒が増えていったように思われる。何とか自分の力で解いてみたいという欲求が授業者に強く伝わってきたのが印象的である。約二時間の授業終了後、生徒達は「疲れた」とか「二時間あっという間だった」という言葉を口にしてしたが、この言葉は生徒が真剣に授業に取り組んだと結果だと考えられる。

生徒達がこれほどまでに考えることの楽しさを理解できたことは、正直なところ意外な結果であった。目的に挙げた項目はほぼ達成できたのではないかと考えている。

反省点

アカデメイアは基本的に隔週の土曜日に行っている。このため授業と授業の間隔が広くあくことになる。今回は文化祭などの行事も入り、三週間、一ヶ月とあくことになった。折角考える方法などを学んでも、授業の間隔があくことで興味が低下したり、授業の内容を忘れてしまう生徒もいた。また練習問題の多くは家庭での宿題としているため、問題を解いて、自分の答えは正しいのか正しくないのかというフィードバックに時間がかかるという問題も生じた。来年度以降実施する場合は、この項目は一回の授業時間を延ばしたり、隔週実施を毎週実施に変更するなどの対策が必要になると思われる。

生徒の中には全く問題に手がつけられない者もあり、授業進行について改善する点もあるように感じている。

③様々な考えを述べあい、議論、討論する力の育成

受講者：94名

（3回分 11・12月 6～8人で一班の12班）

	テ ー マ
1	もしも自分が死んだら…どうなる？ どうして欲しい？ どうしたい？
2	植物のかたちの不思議
3	フリーターについて
4	筑坂生活enjoyプランーあなたが望む高校生活とは？
5	我が国の科学技術政策について
6	フリーターってどう思う？
7	「外見」と「内面」あなたはどちらを磨く？
8	障害とは何か？
9	「科学は人々を幸福にしたか？」または「動物飼育と動物福祉」
10	筑坂の校内環境を考える？ここちいい学校をつくらう？
11	どこで育てられたか分からないがとても安い野菜と誰がどこでどのようにして育てたのかがはっきりと分かるが高価な野菜、君はどちらを買いますか？
12	「どのように学べばよいのか」学習の仕方

報告1 テーマ「フリーターについて」

第1回（全員出席）

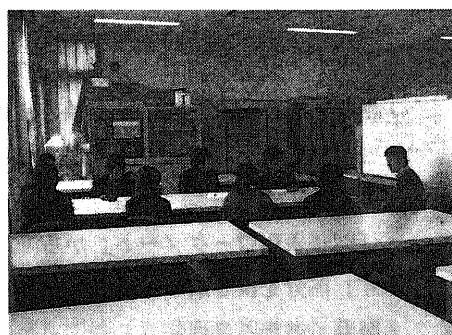
1 フリーターのイメージ

全員がフリーターについては良くないという考えでした。討論するには別の意見も欲しかったのですが。この先どうなるか・・・という感じでした。

2 Webの紹介

「国民生活白書」の平成15年版が「デフレと生活一若年フリーターのいまー」という内容なので、紹介しました。

こんな政府刊行物があるんだというのを知っておいていいかなという感じです。



「真剣10代しゃべり場（NHK）」も紹介しました。フリーターについてもありました。

3 「真剣10代しゃべり場（NHK）」の発言内容をもとに、討論を試みました。

課題 フリーターの実態を調べ、自分の意見を考える
第2回（欠席1名、遅刻2名）

- 1 調べたり考えた内容について発表・討論
- 2 発言の中から気になったことをピックアップして討論

目的意識をしっかり持ったフリーターもいるということで、肯定論ができました。

それでもダメという否定論も。でもなかなか議論には発展せず。

恋人がフリーターになるといったら？結婚を考えている人になるといったら？ なんていうことも話しました。

課題 目的意識をもたないフリーターをなくすには
これまでの内容からフリーターについての自分の意見をまとめる

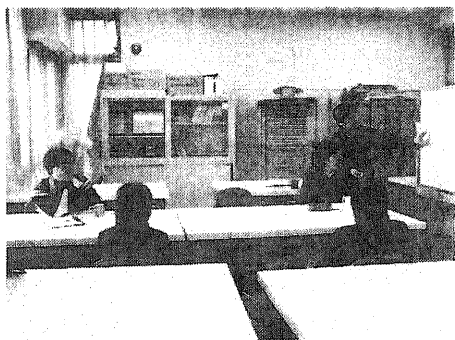
全体をとおして

まだフリートークできる状況にはなっていません。我々が入って指名しないと発言がでないという状況です。なかなかフリートークというのも難しいとは思いますが。男子のほうがむずかしいかなあというところ。あと1回。もっと積極的に盛り上げたいところです。

第3回（参加者 鈴木チーム2名 吉備チーム1名）

あまりの人数の少なさに、吉備先生チームと一緒にやりました。

1 目的意識のないフリーターをなくすには
学校で教えるべき、
本校のよう



な学校なら教えている、という内容からテーマからはずれて本校のいい所、悪い所という話題も。

2 働くことって何？

生活のため、お金のためという寂しい現実論。その後、存在感とか、自分の作ったものが社会にでる喜びとか。

3 フリーターについて自分の考え（まとめ）

はじめの否定論オンリーから認める意見も。ただ自分ではなりたくない。

4 全体をとおしての感想（生徒）

考え方や視野が広がって楽しかった。こういう考えもあるんだなあとか。自分の考え方が変わっていったとか。3回でちょうどいい、3回では足りない、さまざま。知らない生徒が多く話にくかったという子も。おおむね今日参加した生徒には好評であった。

5 レポートの提出について

3回を終えて

議論・討論まではいきませんでしたが、生徒が他の意見を尊重したり、それを踏まえて、自分の考えが変わっていったり、視野が広がったという点ではよかった。教員サイドがどうサポートしていけばよいかは大変難しかった。

報告2 テーマ「もしも自分が死んだら…どうなる？どうして欲しい？どうしたい？」

第1回（欠席2名）

1. 基礎資料：葬送を考えるー葬儀、墓、散骨などについて（新聞切り抜き、家庭科資料集から）

2. 内容

(1) メンバー紹介

ネームプレート作り 自己紹介：誕生日と生まれた時の様子など

(2) 連想ゲーム

「死」という言葉から連想する言葉を各自カードに書き、分類する。



「死」を中心に分類したカードを配置する。

(3) 自由意見交換

カードの言葉を見ながら、「もしも自分が死んだら、どうなる？まわりの人（友人・家族）はどうするか意見交換。

(4) 今日のまとめ・次回までの課題

キーワードを補い、簡単に説明「脳死と臓器提供（ドナー）」「アイバンク」「献体」

基礎資料の提示、説明

今日の話し合いをもとに、他の人（友人や家族など）と意見交換し、次回までに「もしも自分が死んだら、どうして欲しいか」自分の考えをまとめてくる。

補ったキーワードについて資料を集めてくる。

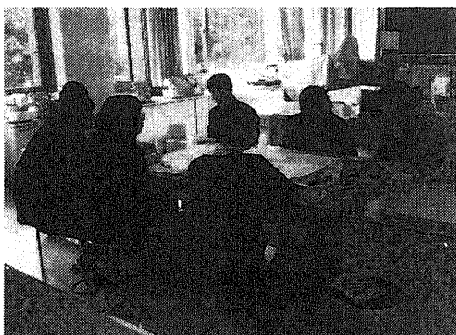
3. 生徒のようす

テーマの内容上、笑って盛り上がるというわけには

いきませんでした、なごやかに、まじめに話し合えたと思います。

・・・A組、C組のクラスの仲のよいペアのなかで、

D組の男子が1人で仲間が欲しいとうでした。女生徒たちも気軽に彼に話しかけ、彼も応答し



ていましたが、やや緊張気味でした。互いの考え方を尊重することができる生徒たちという印象ですが、積極的にホンネの意見をぶつけあうところまではいけませんでした。

感想

私が想像していた以上に、生徒たちはアカデメイアに積極的に興味をもって気軽に参加していると感じました。

・・・最初にネームプレート作りをしたとき、生徒たちからいろいろなアイデアが出され、楽しんで作ることができ、場の雰囲気もなごみました。

第2回（出席5名 欠席4名）

1. 生徒の様子

・集めてきた資料の発表とそれについての意見交換。

基礎資料の提示（角膜とは？、アイソクイズ、献眼体験者の言葉、献眼、献体について）→ 献眼、献体の実態を知る。

自分が死んだ場合、家族が亡くなった場合どうするか考え、理由とともに発表。他の人の考えを聞き、自分の考えが変化した者もいた。

・女子2人は課題の資料集めをしてきた。献眼、献体についての意見交換の場でも、2人は話を展開するリーダー的な発言が目立った。

・自分の経験などを「教師から聞かれば話す」から、今回は、「角膜をどうやって取り出すのか？」「献体の後、どうなるのか？」といった疑問も出された。

献眼で眼球を取り出した後は義眼を入れるということから、「亡くなった人は目を閉じている」「義眼の芸能人がいる」など話しが広がっていった。テーマから多少はずれても、生徒だけで話し合い、知的好奇心を広げていく雰囲気を大事にしたつもりである。

2. 3回目は多少資料を補い、テーマにそって自分の考えをまとめる。

報告3 テーマ「内面と外見、どちらを磨く？」

第1回（出席6名 欠席1名）

1. 基礎資料

①「しゃべり場」のビデオ

②プリント「アナタは頬をマジックで赤く塗って外出できますか？」

流れ

①最初の1時間でビデオを見る

②10分の休憩後テーマに沿って討論

③最後の5分でプリントを配布。「外見を治せない人はどうすればよいか」を投げかけ、次回までに考えをまとめておくこと。

2. 討論の主な内容

・可愛い

て得かな

・男と女で

は外見に対しての考え

かたは違う？

・外見で判断されるっ

てどう？

・自分に自信が持てる？

・自分の中に武器を持つってどういうこと？

・あなたは武器を持っている？

・本校の制服の着方をどう思う？

・本校生徒を見て外部の人はどう思う？

・内面を知って欲しいときはどうすればいい？

3. 反省

①ビデオが長すぎた。30分位ですぐ討論した方が、多く意見がでた。

②教員が討論の司会役のようになってしまった。

③誰かの主張に対して、自分の意見がでない。私からの投げ掛けだけに対しての意見を言うだけである。

④無難な意見が多かったように思う。

第2回（出席3名 欠席4名）

1. 基礎資料

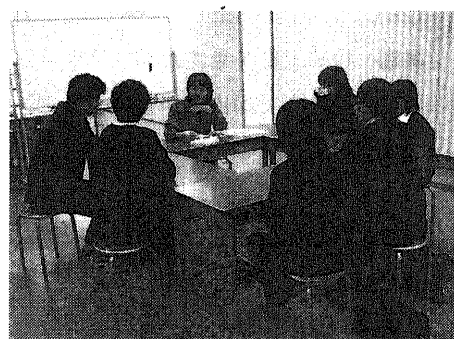
①プリント「アナタは頬をマジックで赤く塗って外出できますか？」

2. 流れ

①前回配布しておいた資料を基に自由討論

②10分の休憩後テーマに沿って討論

③次回は、自分の考えをうまくまとめて発表できるように指示



3. 討論の主な意見

- ・コンプレックスはだれにでもある。
- ・コンプレックスを乗り越えることは、内面を磨いていることに通ずる。
- ・内面と外面は区別できない。どちらかを磨こうと努力すれば、どちらも磨かれていく。
- ・鏡を見つめるって、自分をみつめている。
- ・「自分らしさ」と言うけれど、自分がまだよく分からない。
- ・化粧や服装は自分に鎧を着せている。
- ・黎明祭で自作の鎧を付けて歩いた。すごく楽しかった。
- ・高校3年間は自分作りの期間だね

4. 反省

- ①今回は2度目なので、少しは活発な意見を期待していたが、だめでした。
- ②教員が討論の司会役のようになってしまった。
- ③1回目同様、誰かの主張に対しての自分の意見がない。私からの投げ掛けだけに対して意見を言うだけである。
- ④相変わらず、無難な意見が多い。
- ⑤次会はお菓子とお茶を出そう！！

報告4 テーマ「植物のかたちの不思議」

内容：花、実、種子、茎などを観察しながら植物のかたちの不思議と人間と植物とのかかわりについて考えよう。

第1回（出席6名 欠席2名）

1. はじめに

秋になりました。皆さんは、「秋」というとどんなことをイメージしますか。

私は「秋」というと「紅葉の秋」と「味覚の秋」をまず思い浮かべます。自然の中を歩くことや食べることが好きなため、こういうことを思い浮かべるのだと思います。普段農業や環境の授業を担当しているので、そのことも大いに関係しています。それは、植物が冬の準備を始めるこの時期は日々景色が変化し、格別な思いを抱くのだと思います。

そこで、私のクラスでは、植物について、秋にちなんだテーマも少し取り入れていきたいと思っています。

2. この班のテーマ

私たちは、様々な形で日々植物と深くかかわって生活しています。

しかし、私たちの身の回りの植物は自然界の中では

ごく一部分でしかありません。

皆さんは、もっと自然に近い形でのかかわりを望みますか。それとも??

3. 今日のテーマ

「柿の実」を見ながら、果実をじっくり考えよう。秋の味覚のひとつに柿がありますが、皆さんは自分で柿の実をむいて食べたことがありますか。なぜこんな形をしているのだろう、中身はどうなっているのだろうということについて、皆で考えながら観察して行きましょう。

討論① はじめに、柿の実の中身はどうなっているか。

中を見ないで考えてみよう。

渋柿と甘柿、あなたは見分けられますか？

討論② 種の無い柿と種のあ

る柿。あなたは見分けられますか？

討論③ 「品種改良」とは何だろう。自分で調べてみよう。

4. 連絡事項

秋の果物をテーマに討論するだけでなく、せっかくの機会だから秋の味覚を皆で少しずつ味わいましょう。討論の後に、試食をしますので一人100円程度集金します。

第2回（出席7名 欠席1名）

1. 前回のまとめ

皆さんに感想を書いてもらったところ、次のような意見がありました。

・Aさん…いつも店で買ってきたやつをただ食べるだけなので、渋柿のことなんてほとんど考えていなかった。これからじっくり考えて、食べてみるのもいいのかなあと思いました。

・Bさん…やはり食べ物は見た目だけでは味の判断ができるようなものじゃないと思った。その結果で、見た目で判断するのは食物全部では自分で判断すると偏ってしまうのかと思った。

・Cさん…見ただけで、よく色々判断していることが改めてわかった。

・Dさん…自分が色のイメージとかで食べ物の味を決めていたんだってということがわかった。



・Eさん…予想がことごとくはずれた。今、お店でうっているのはほとんど人間に食べやすい野菜や果物なんだなと知った。でもそれだと、育てられて食べられる品種は限られてしまうのではないかと思う。全部似たような見た目だった。

・Fさん…実際に切ったり、食べたりして、意外な結果に驚いたし、全部甘柿とわかったときは、おもしろかった。

2. イチゴの種はどこにある？

バナナの種はなぜないのか？

3. 品種改良って何だろう？

お店で売っている植物(野菜・果物)は、自然のもの？

私たちは、選んでいるようで選んでいない!?

では、どうしたらいいだろう。

4. 討論

討論① 品種改良とはどのような目的で行われているのだろう。

品種を改良すると自然(野生種)から遠くなってしまう…

討論② 品種改良には色々な方法が使われてきた。

どんな方法が用いられるのか、最近の技術を見てみよう。

討論③ 品種改良のあるべき形を考えよう。

「生物多様性」という言葉を聞いたことがありますか？

第3回

1. 前回のまとめ

皆さんに書いてもらったレポートを読んだところ、大きく分けて3つの話がありました。

①バナナの種について

・前から種が見つかりにくいのはわかっていたが、まさか皮と食べる部分の間にあるとは思わなかった。

・自分が日頃何も考えずに食べていたものでも、色々なことを秘めているということがわかった。

・バナナの種のつき方が予想外で驚いた。バナナなんて外国で作られてやってくるものだから、種や野生種なんてわからない。

・バナナを食べたり紅茶を飲んだり、おいしかったです。

②品種改良の歴史について

・今日品種改良はなくてはならない技術だと思いました。

・品種改良の意味や果物の特徴などビデオを見て知ったり、実際に実験をして調べてわかったり食品につい

て考えることにおいて大事なことばかりでした。

・交配による品種改良でも遺伝子が組換わるなら、遺伝子組換えは特別なことではないのかも。

③遺伝子組換えについて

・なんとなく「体に悪そう」とか一方的に「よくない」ことを思っていたけれど、かなりの時間をかけて厳しい審査も通って商品化されているので、すごく安全なことがわかった。

・遺伝子を組換えると、すごく便利な作物ができるけれど、いくら安全だと言われても、何か良くないことがありそうで怖い。

・遺伝子組換え技術をしたトマトは、普通のトマトより色が明るくおいしそうでした。

・たくさん知っただけに、遺伝子組換えなど食品についての悪い点も見えてきました。

・品種改良のひとつとして遺伝子組換えというのがあって、遺伝子を部分的に組換えができるというのは素晴らしいことだと思いました。

・人間が自分の好きなように生物を作ることができる点では少し恐いかもしれない。

・しかし、今の時代牛肉などがじつは国産ではなかった。牛乳などもいろいろな問題ができています。本当に信じていいのでしょうか？

2. 今日のまとめ

今日は最終回ですので、まとめを行います。今まで考えてきたことを模造紙にまとめて発表しましょう。

